

## 第3回東大阪市総合教育会議

- 1 日時 平成27年6月15日(月)  
開会午後0時55分  
閉会午後1時55分
- 2 場所 市庁舎18階会議室1及び会議室2
- 3 出席者

市長	野田 義和
----	-------

(教育委員会)

委員長	乾 公昨
委員長職務代理者	神足 紀陽子
委員	酒井 理
委員	堤 晶子
教育長	西村 保

(出席説明員)

教育次長	南谷 佳宏
教育次長	植田 勝
教育総務部長	山本 義範
社会教育部長	安永 史朗
学校教育推進室長	坂上 圭三
教育企画室長	大辻 雅稔

(事務局)

市長公室長	山本 吉伸
政策調整室長	川東 絵里
政策調整室次長	瀬川 政嗣

#### 4 第3回会議の議事録

##### (1) 市長開会の挨拶

- ・資料として「教育行政の大綱に関する主な意見」を配布

##### (2) 教育行政に関する大綱について

市長) 大綱に記載する項目について、前回の会議では、「キャリア教育」「連携教育」「大学との連携」で特に多くの意見をいただいた。また、その他にも資料に記載しているような意見があった。特に項目にこだわらずフリーに意見をいただきたい。

#### 【各委員からの意見】

乾委員長)

- ・東大阪市にはキャリア教育を進めていくうえでいろんなノウハウもあるし、資産も持っていると思っている。このことについては大綱に必ず盛っていただきたい。一定の具体的な方向性として企業との連携を含めて、ダイナミックにやっていけないのではないか。
- ・市長がおっしゃられていた学力向上の面、誕生から一貫した教育のあり方については、もっと具体的な取組みとしてやっていけないのではないか。特に、家庭教育を支援するための施策を福祉など色んな関係機関と知恵を寄せ合って進めていきたい。
- ・家庭教育については、家庭教育の手引きを配布するだけでなく、より密接な家庭との連携、家庭との信頼関係をしっかり築いて一体になってやっていかないといけない。
- ・教育をするうえでどの家庭も難しさを持っていると言われている。それを十二分に理解したうえで家庭のサポートをしていってほしいというのの一つ。
- ・誕生から一貫した教育と言えば幼児教育が大きな視点。
- ・小中一貫教育の推進に力を入れられるような視点を大事にしていきたい。そのことは大きな学力向上につながり、また学力指導だけでなく、大阪の課題である生徒指導・生活指導・教職員の資質向上にも繋がっていくと思うので、9年間を見通したカリキュラムの編成を考えてほしい。
- ・三つめとして、学びの連続性で地域住民や関係機関との連携・協力で、より開かれた学校づくりとか、前回も話した土曜日、日曜日のあり方、放課後教室のあり方、長期休業日のあり方、大学との連携による学習保障、教職員の資質向上についても進めていけないのではないか。この点については、学びがずっと続いていくということからしっかりと大綱に盛り込んでほしい。
- ・学力向上について、土曜日、日曜日の学校のあり方、地域のあり方について言うと、特色のある色々な取組みができるのではないかと。英語検定や漢字検定を含めて検討してもいいのではないかと。

酒井委員)

- ・キャリア教育が非常に重要だと認識していて、また、地域との連携、小中の連携、さらに大学の連携。この連携をどう位置付けていくかを考えておくことが重要である。
- ・キャリア教育を支えるにあたって、地域や大学との連携、幼小中高との連携が非常に重要になる。
- ・キャリア教育を一つの大きな目標に立てて連携が手段と位置付けるか、最終的に連携そのものを目的とするかは考えるべきところである。
- ・大学に関しても大学の教員や学生が地域に出て、高校・中学校・小学校に出かけて行って、自らの活動で学びを深めていくことは、大学にとっても地域の小・中学校にとっても良い影響が出る。ウィンウィンで、どちらも良い影響が出るかと考える。
- ・もう一つ大事だと思っているのが、情操、教養というような教育の部分。キャリア教育の中で考えると情操、教養は子どもたちの基礎を培う部分で、キャリア教育でさらに社会の中でいかに役立つ知恵をつけていくか、基本的な知識の獲得であったり、学力の向上は外せない。そこに情操的な部分をいかに担保していくかが方法として盛り込められればよい。それを社会的な知恵に引き上げるというところにキャリア教育を位置付ける。そういう流れで形づくればユニークな体系ができると考える。

神足職務代理者)

- ・学力向上以外に体力の向上にも力を入れていただけたらと思う。体幹ができていない。今ちょっとしたことで姿勢が崩れたり、しんどいと言う子どもたちがいた場合に、体力向上はずっとこれからも続いていく課題である。年をとってからでも体力は必ず必要であり、幼児期から一貫した体力向上の取組みを考えていただきたい。

堤委員)

- ・皆さんがおっしゃるように実践ができれば素晴らしい。そのためには、金額の多寡ではなく具体的にそのための予算が必要である。
- ・キャリア教育が必要なのは、学力向上に関しても非常に良い影響があるからである。プロジェクト型で目標を決めて向かっていく中で、前回は物品販売が良い経験となるという話があったが、それは算数・数学で習ったこと、たとえば原価計算や割合ができなければいけないなど、学習の意義を知ることができる。子どもたちはそれまで退屈と感じながら基礎基本をドリルでやらされてきたと思う。でもキャリア教育では、子どもたちが課題を解決するためにはいろいろな力が必要だということに気づいて学習していくことになる。
- ・教室に戻った時、子どもが自らの学びを考えていけるような体験になるという点で、キャリア教育は、日々の授業にも役立つのではないかと。ただ、どうしてもプロジェクト型の授業はサポートが必要になり、先生方にもこれまでにない活動が求められるので、指導の面で負荷が高いと思われる。そのため実践が困難となる場合が多い。

・キャリア教育を実践していき、気づきの中で子どもたちが変わっていくんだということを実感し、理解いただくために、教育委員会として学校教育推進室やいろいろな部局との調整、行政の協力のもとで進めていく必要がある。

西村教育長)

・前回、困難を抱えている子どもたちの支援という話が出たが、生活困窮の問題もある。また本市では、特別支援の在籍が小学校で約 200 人、中学校で 80 人いる。特別支援は、アクションプランで展開される予定だが、大綱の中でも盛り込んでいただきたい。

市長)

・学力向上と大学連携がミックスできないかなと思っている。先月、九州工業大学大学院へ縁あって授業をしに行った。生命体工学科の院生とのフリートーキングのなかで、僕たちにピタゴラスイッチを東大阪市の子どもたちにやらせてくださいという話が出た。

・本市には理科系の近畿大学もあるので、現実としてどの程度教育、理科、科学に結び付くかどうかは専門外なので不明だが、大学生のチームがあつてピタゴラスイッチみたいなものを作って、幼稚園、小学校 1 年生 2 年生くらいまで、それを見て色々な気づき学びがそこでできればよい。特に、理科系教育の学力低下、ものづくりの観点からも重要視されているところで、教員にピタゴラスイッチをやれというのは大変だが、授業の間に学生が出向いて作って、実践するような連携みたいなことができればいいのかなと院生から提案があつた。

・その他何点か気付いたことを申し上げると、学力向上に関連して土曜日、日曜日のあり方について、メディアで泉佐野市が夏休みを短縮させる、来年度から土曜日を月一日授業をするという情報が目についた。授業日数の確保の観点から、本市もそういった考え方ができるのかできないのか、効果がどの程度見込めるかだが。

・一貫教育について、最近幼稚園の子どもたちが中学校の運動会に参加する。昨日盾津中学校を訪問した。準備中に女子中学生が幼稚園の子を並べせたりお世話をする。よい雰囲気だった。中学生・幼稚園児両方から何も言わなくても、そこにいるだけで何かを汲み取ってくれるんじゃないかという気がして、こういう取組みはよい。池島の場合は幼小中高まで連携している。訪問した際に、よい雰囲気よい空気を感じられた。子どもたちもそういったものを感じているのではないかという思いがする。連携教育をもっと具体的に日常的に本市の教育の中で組み入れることはできないか。

・また、幼児教育を考えると教材の工夫が必要と感じている。

乾委員長)

・土日の話だと前に勤めていた学校では漢字検定をやっていた。小学生も中学生もその子どもたちの保護者、祖父母も含めて漢検を受けに来ていただいて、学校が一つのキーステーションとなれているのではないか。ある子どものおばあさんからは、三重

県の友達も受けに来てよいかと聞かれてどうぞと答えた。繋がるということは大事ではないか。連携という言葉は、繋がり携えるわけだから、繋がることを大事にしていただけると、いろんな方が、学校の中の協力者であり応援者であり、子どもは地域の中で育つわけだからその力がほしい。もちろん授業日数は大事で、東大阪市の中学校ももっと確保していかなければならないという思いはあるが、色々なところで地域の人が入っていただいて一緒に勉強していくことができればよい。

- ・前の学校のとときに新任で来られた先生がおられて、奈良高専から神戸大学を出られた人で、その先生の提案で神戸大学の人や奈良高専の教授も学生も来ていただいて、中学校の生徒だけでなく小学校の生徒も保護者も入ってもらって、コンピューターをロボットに組み込んでロボットが動くということを楽しんでいただく。また、神戸大学の人やドリーム21の方に来ていただいて天体観測を七夕にさせていただいた。夜なので非常に気をつかったが、1回目で保護者300人以上来ていただいて、来年を楽しみにしていますとおっしゃっていただいた。学校が色々な知恵をいただくとやっていける。

- ・これだけ大学があるのだから先生・学生の力をいただきながら教職員も一緒に学んでいけるのではないか。大学を出た若い先生に、大学との連携を教えていただいた。キャリア教育で最初に取り組んだときに、これだけの高い技術力があることを企業から学ばせていただいた。学校は日々の生活で忙しい。先生方は手が回らないということも合わせて、教育委員会と関係部局一緒に協力していただいたら、子どもの学力が大きな意味で伸びていく。

酒井委員)

- ・色々やるには資源が必要になる。それを補うために、地域にある大学・企業を連携で活用していくことは大事な視点ではないか。学校が大変なのは重々承知しているが、資源をこれ以上追加しなくても地域に眠っているというか、連携によっていい関係を作ることにより効果的な教育施策ができる可能性もある。

- ・地域で大学生が小学生の販売体験を主催するという中から、学生が小学生の学びの一部を担うことで、大学生にとっても、大学教員にとっても、小学校の先生にとっても学ぶところが多かった。こういう仕組みを築きあげることができると、非常に良い仕組みというか地域の中にそういったものができてくると考える。

- ・企業との連携をしっかりとということで、企業にとってもメリットを享受できる部分を明確にすれば、もちろん地域のために社会貢献という意味もあるが、将来的には地域の製造業、商業を担っていく人材を育成すると、長い目で見るとそういった部分も期待できるかもしれない。高校・大学生が連携することで企業にとっても、新しいアイデアが提供できたりといった良い連携を作っていくことができればすごくよい。

- ・地域でも、たとえばまちづくりの団体でロボットを作る教室を開くと小さい子どもが喜んで集まる。連携まではいかないまでも地域でそういう教育部分を担っていけれ

ば、良い方向に行くかもしれない。

神足職務代理者)

- ・科学の不思議について、身近なもので、こんなものができるというのは、子どもたち、お年寄りにとって感動だと思う。ぜひ、そういうことを実現し、連携の目的にしてみたらうれしい。

堤委員)

- ・今、東大阪市の教育に期待できることは、総合教育会議によって、教育委員会と関係部局の連携も強くなっていくだろうということ。
- ・学校と地域でこれまで良い取組みをたくさんしてこられたが、残念なのはそれが点で終わるというか、いろいろな繋がりが無いままに取組みをされてきた。これからは市全体の取組みをして点が線になり、面になりシナプスが繋がっていくように、一地域だけで終わることのないようにするのが重要ではないか。そのためには地域の特別な取組みも市全体の取組みの中で地域、企業の方々に協力していただき、成り立っているということが見えるようにしていただくことが一つ。
- ・もう一つは、市長が言われるように、日常の教育の中でどれだけいろいろな取組みが取り入れられていくのか、日々の授業の中にまでどうやって落とし込んでいくのかということも大切。ただ単にイベントで終わらせないことも今までの困難を乗り越えるということの中には一つ大きくあるかと思う。
- ・学校教育そのものが変わっていくことと学校を取り巻く地域、いろいろな方々の支援・協力がある中で、市全体として教育の大きな変化、効果的な取組みができることによって子どもたちが育っていくような図式が見えるように、分かるような形で表現をしていただきたい。

乾委員長)

- ・以前大学の先生に、「連携はイベントで始まりイベントで終わるような学校が多いよね」と皮肉られたことがある。そうならないためには、専任の連携担当者、組織として連携担当部局、学校園長のリーダーシップがどうしても必要である。リーダーシップを持てるように、教育委員会も応援する組織であることが大事ですよと言われた。まさにそうだと思う。
- ・連携という言葉は良いし、やっていかないといけないと皆分かっているが、そのために推進役・旗振り役が非常に大事。イベントで終わらせずに、子どもたちの学力、子どもたちに返せるように、定着する取組みに持っていかなければならない。

西村教育長)

- ・先ほど市長からあった学力向上に関わっての夏休みの短縮について、本市の取組み方を植田教育次長から説明してもらおう。

植田教育次長)

- ・本市では、夏休みに入った時と終わりあたりに子どもたちの学力をサポートするサ

ポートデーを設けている。1週間前後の期間をどこの学校でも取っている。子どもたちの個々に応じた学力を補充し、基礎基本が必要な子にはその時間帯に来てもらう、発展的な問題を促す子はその時間帯に来てもらうということで学校が対応している。授業という形にするには、全員が出席という形をとることになるが、そうではなく個に応じた学びを保障するという意味でそういった取組みをやっている。

- ・土曜日授業については、月1回とか地域の方を招いて講座をやっている学校もある。連携して校区で取組んでいるものを土曜の授業と読み替えているところもあるが、あまり広い範囲では行ってはいない。

- ・色々課題もあり、全市的に土曜日授業を必ずやっているとは限らないが、校区として進めているところもある。

西村教育長)

- ・そういう意味では、教員の確保、マンパワー、新たな予算が必要となる。

堤委員)

- ・今の件に関して、学校を使わせていただくのが一番保護者の方が安心され、地域の方も参加しやすい。

- ・しかし、実施場所は学校でも、学校教育の教育課程で行われる教育活動以外の教育ということで位置付けて、先生方に負担をかけない仕組みを作ってもらいたい。

- ・先生方は、教育課程の中の授業をどうやって今以上に深めていこうかという活動を若い先生を抱えながら努力されていると思う。できたら、方向性としては担っていく方や予算の面など直接、学校が関与しなくてもできるように進めてもらえないかと考えている。

- ・もう一点、話を戻してしまうが、連携の取組みがイベントで始まってイベントで終わってしまう原因として、私たちはつい子どもたちしか見ていなくて、子どもたちのためにご支援いただいたことに、お礼を申し上げればよいという考え方に留まりがちである。

協力してくれた方々のメリット感というか、どこかにインセンティブがあるよう、やってよかったな、また続けてやろうというモチベーションに繋がるための配慮に欠けるところがあったのではないかと思うことがある。

- ・Win-Win の関係を築くということが大事である。やりがいであったり、ひいては企業であれば東大阪市の地で自分たちの企業にも貢献してくれる子どもたちが育つんだという思いが持てるような取組みにしていきたい。

酒井委員)

- ・就学前の小さいお子さんの場合でも、今、子育て支援センターで読み聞かせをサークルの方々の支援で毎年開催していて、毎年参加者が増えている状況である。こういった、学校だけでなく、教育そのものをもう少し広い範囲で、地域で育て上げる。そういう視点でこれを機会に捉えなおすことができないか。

・これに関連しては、教育委員会予算で、保健センターで本を配っていただき、縦割り行政を越えた取組みだったと記憶している。部局間を越えた取組みを考えていくともものすごく効果の出るものがある。是非、この大綱を作る良いきっかけなので、そういったことも睨みながら考えていけたらと思う。

堤委員)

・学校教育だけでなく福祉、社会教育との連携が非常に大切だろう。具体的にはアクションプランの中で色々な連携をし、密にしていくことについて、どんな方法を市長は考えておられるのか聞きたい。

市長)

・社会教育の部分、健康部との取組み、ブックスタート事業などがあるが、大綱があつて(仮称)アクションプランがある。

・社会教育も含めて、具体的なブックスタート事業に代表されるような他部局との連携について、事務方として間口はどういうふうな考え方なのか。

山本教育総務部長)

・アクションプランは教育振興基本計画の行動計画的なものとする。範囲が学校教育だけでなく社会教育、他部局と関連する部分であっても教育施策に関わる部分については対象になってくると考える。

市長)

・基礎自治体という立場もあるので、社会教育の範疇、福祉部、健康部とか他部局でやっている事業と「教育」というキーワードで連携、あるいは教育が主体となってやるべきではないかなど、方向性や考え方を大綱に入れても理論上問題はないか。

山本教育総務部長)

・総合教育会議は、市長部局と教育委員会との連携を図ることが大きな目的にある。市長部局との連携が意欲的に図れるようにするのも目的である。

・大綱の中に示される内容は、狭義の学校教育・社会教育だけでなく市長部局の施策と連携を図るような内容についても大綱の中に示してよいと考える。

市長)

・昭和62年当時静岡県掛川市の市長は社会教育に精通していた。ありとあらゆるものが社会教育で、本市で言えば協働のまちづくり部がやっていることも社会教育、あらゆることを社会教育あるいは生涯教育という言葉で括りながら、市の施策を行っていた。

・本来、総合教育会議は、そういうもの。教育とは教育委員会だけではなく市全体で取り組んで、学力向上、社会教育の充実を図っていく。教育委員会で実行するプラン、健康部で実行するプランなど、私から指示するので意見を言っていたきたい。

・前回と今日と委員の意見を聞いて事務方の意見、感想は。

植田教育次長)



・皆様の発言の内容は貴重なものとする。キャリア教育を中心として身近な所に実感として学んだものが普通の授業の中で学んでいることと繋がっているんだと感じることが学力向上、本当の力を身につけることに必要と感じた。そのために、大学・地域・企業といった社会的な資源を活用しながら教育委員会としても様々な施策を打っていくべきだと。

・ピタゴラスイッチといったものができれば、子どもたちも科学の面白さや本質を感じることができるだろうし、それがモノづくりや地域の貴重な技を学ぶことになっていくと思う。それを学生の力を借りながらやっていくのは一つの良い方法だ。

市長)

・これからまとめをやっていくが、日新高校を学力向上ということで前面に打ち出すことができないか。大学進学とか就職等でもいいところというふうには日新高校をもっていく。そのことをもって本市の中・高に良い影響を及ぼすのではないかな。

・良いとか悪いとかではなく、大学への進学とかランクは学力向上という観点から避けて通れない。日新高校と学力向上にご意見をもらえるのであれば。

乾委員長)

・日新高校は資格を取ることに力を入れている。簿記検定とかアップル検定など資格をしっかりと取っていくことを目指して頑張っている子どもたちがたくさんいる印象がある。

・運動会を見たが、学生が協力的に盛り上げている。やはり学ぶ中に一定の具体的な目標を作ることが大事である。

・しっかりと目標を持った取組みを応援できる。キャリア教育でもそうだが、しっかりと目標を持った取組みを進めていけるように、委員会でも考えながら、私たちが応援しながら、学力向上も含めて目指していくのが大事ではないかと思う。

市長)

・市長になって8年になるが、日新高校に行ったときに年々良くなっている点として、子どもたちのマナーがよい。おもてなしが、向上というか去年より今年の方が態度が悪いと感じたことがない。常にレベルアップしている。それが日新の良い校風・伝統を築いてくれているのかなと。

・日新から関学に推薦入学の決まった女子生徒の披露してくれた資格がすごかった。そういう生徒に追いつけ追い越せみたいな学校の雰囲気、システムみたいなものができればよい。

乾委員長)

・子どもたちは、将来の自分がなりたい夢とともに目の前にある何らかの取組み、やっていきたいものをしっかりと持たせてあげることが大事である。

酒井委員)

・大学の立場からということで、今、日新高校の関連で、大学も多様な人材を求めて

いる。色々な学生がやりたいと思う活動に対して積極的に支援できるような仕組みを作ることが大事ではないか。

・勉強したいというか数学・英語を極めたい学生に対してそういった支援をし、地域で活動したい学生にはそれを支えるような支援をする。支援する方は大変になるが、多様な人材を輩出するという雰囲気ができてくるとそういう中で活動する学生も勉強する学生が生き生きしてくるのではないか。

市長)

・時間の制約もあるので大綱そのものは項目としては5項目程度にまとめて、今まで出た意見、最終的に時間が足りなければ書面なり個別に事務局からご意見を聴取することも含めて取組む。

・大綱については総花的にならないように東大阪市らしさを出しながら、重点項目5項目ないし6項目程度にまとめる。さらに優先順位を何らかの形でつけて大綱の中で出していきたいと考えている。

・次回には特に東大阪市としてどの項目に重点をおいて特に具体的なイメージを持って展開していくかというあたりの意見をいただきたい。

## 5 次回会議について

事務局)

- ・市長の公務日程の都合や意見の取りまとめ、課題整理のため7月は休会する。
- ・平成27年8月18日(火)午前11時より18階会議室1・2で開会を予定

(以上)